

おんががわすいげんち 遠賀川水源地ポンプ室^{しつ}

所在地／中間市

指定／世界文化遺産

1901年（明治34）、^{かんえいやはたせいてつじよ}官営八幡製鐵所が開業し、鉄づくりを始めました。鉄を作るためには、大量の水が必要となります。最初は近くの川の水を使っていましたが、やがて製鐵所を大きくする工事を行うときに、新しく遠賀川から水を引くための施設を建てることになりました。それが、遠賀川水源地ポンプ室です。



遠賀川水源地ポンプ室 ※非公開施設
（新日鐵住金（株）八幡製鐵所提供）

遠賀川水源地ポンプ室は、1910年（明治43）に建てられました。建物はレンガで作られ、内部には水を沸かして蒸気を作るボイラーが8基と、この蒸気^{じょうき}の力で動くポンプが4基^き、設置^{せっち}されていました。このポンプ室によって、製鐵所から約11キロメートルも^{せいてつじよ}離れている遠賀川から、鉄づくりのための大量の水を送ることができるようになりました。

こうした遠賀川水源地ポンプ室の施設は、製鐵所と同じように、後に国から民間の製鐵会社^{せいてつがいしゃ}に引きつがれました。内部のポンプは、後に蒸気機関から電気で動くポンプに切り替えられましたが、ポンプ室の建物は明治時代のものが現在も使われています。そして2015年（平成27）、製鐵所の建物などとともに、世界文化遺産^{とうろく}に登録されました。

【もっとくわしく調べたい】

○中間市地域交流センター 福岡県中間市大字垣生 660 番地 1 Tel 093-245-4665

【遠賀川水源地ポンプ室に行ってみたい】

○JR筑前垣生駅、筑豊電鉄希望が丘高校前駅より徒歩

※内部の見学は通常できませんが、外側から建物を見ることはできます。